

保存修復学

前期

《担当者名》 教授 / 齋藤 隆史 t-saito@ 准教授 / 松田 康裕 ymatsuda@
講師 / 泉川 昌宣 s-izumi@

【概要】

総論では、う蝕をはじめとする歯の硬組織疾患に関する基礎的事項とその予防法および検査・診断法、さらに各種修復法に共通な原理と技術について理解し、各論では、各種修復材料に適した修復の理論および術式を学習する。

【学修目標】

- う蝕の症状と診断を説明する。
- 歯の検査法を説明する。
- う蝕の予防と治療の方法を説明する。
- tooth wear (酸蝕症、咬耗、摩耗等)の原因、症状、診断および処置を説明する。
- MI (Minimal Intervention)に基づく歯科治療の意義、臨床的対応を説明する。
- 象牙質知覚過敏症の病因、病態、診断および治療法を説明する。
- 生活歯の変色の原因、種類および処置を説明する。
- う蝕およびその他の硬組織疾患に対する歯冠修復の臨床的意義を説明する。
- 修復材料と修復法の適応を説明する。
- 修復に必要な前処置の目的と意義を説明する。
- 歯髄保護の種類と方法を述べ、その重要性を説明する。
- 窩洞形成の意義と方法を説明する。
- 仮封の意義、種類および特徴を説明する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1) 2	保存修復学概説 1. 保存修復学の概念と目的 2. 保存修復学の歴史 3. 歯・周囲組織の構造と口腔の機能 4. 硬組織疾患、歯の発育異常及び硬組織関連疾患 5. 保存修復の適応症と禁忌症 6. 保存修復の種類 7. 修復材料の一般的性質 8. 修復材料の選択基準 9. 修復の概要 10. う蝕の病因と病態	保存修復学の歴史と目的を理解する。 エナメル質、象牙質、セメント質の正常構造と機能を理解し、硬組織疾患の原因と種類、特に、う蝕の病理、診断、処置を理解する。 保存修復の適応症、修復材料の所要性質、各種修復法ないし材料の特性を理解する。 「保存修復学」P.1-P.37 D-3-2-1 D-5-2-1-1	齋藤 隆史
3) 4	患者の診かた	診療設備、診療姿勢、検査・診断、検査法、検査に必要な基礎知識を理解する。 「保存修復学」P.39-P.64 D-5-2-1-1 E-2-5-1 E-2-2-3	齋藤 隆史
5) 6	患者の治しかた	治療計画を理解する。 う蝕の処置法を理解する。 硬組織の切削法を理解する。 「保存修復学」P.65-109 D-5-2-1-6	齋藤 隆史
7) 8	う蝕歯の観察	抜去天然歯を用いてう蝕を観察する事により、う蝕の肉眼的識別、組織的構造について確認する。 「保存修復学」P.65-78 D-5-2-1-1	泉川 昌宣
9) 10	う蝕歯の観察 (プレゼンテーション)	う蝕歯の観察で得られた知見をまとめ、プレゼンテーションを行う。 D-5-2-1-1	泉川 昌宣

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
11) 12	窩洞形成法 1. 窩洞 2. 窩洞の条件 A. 窩洞外形 B. 修復物の保持と窩洞の保持形態 C. 歯質の強さと窩洞の抵抗形態 D. 便宜形態 E. エナメル質の分離性と窩縁形態 F. 窩洞の清掃	窩洞の意義、名称、諸要件について理解する。 窩洞外形とそれを規正する諸条件、特に、不潔域について理解する。 修復物を窩洞内に長く保持する原理と方法を理解する。 修復物ないし修復した歯に耐久性をもたせるための窩洞の抵抗形態を理解する。 窩洞形成及び修復操作の便宜のために要求される便宜形態を理解する。 窩洞の辺縁部は脆弱で方向性がある。そこで、エナメル質の分離性を学んだ後、窩縁に与えるべき形態を理解する。 「保存修復学」P.110-P.122 D-5-2-1-6	泉川 昌宣
13) 14	修復時の留意点 1. 象牙質・歯髄複合体の保護 2. 修復治療の前準備・補助法 3. 修復物の具備すべき形状と面の性質	修復は生きた組織の創面に対する治療行為であることを認識し、歯髄の保護法を理解する。 「保存修復学」P.122-P.140 修復時の前準備について理解する。 修復物の形状をその表面性状について理解する。 「保存修復学」P.125-P.137 D-5-2-1-4 D-5-2-1-5 D-5-2-1-7	松田 康裕
15) 16	コンポジットレジン修復 (1) 1. コンポジットレジンの特徴 2. コンポジットレジンの組成・種類 3. レジン接着システム 4. 光照射器 5. その他の周辺器材 3. 光重合型コンポジットレジン修復の特徴	コンポジットレジン組成・種類、及びコンポジットレジン修復の特徴を理解する。 コンポジットレジン接着システム、光照射器、その他の周辺器材を理解する。 「保存修復学」P.141-P.170 D-5-2-1-2 D-5-2-1-3	泉川 昌宣
17) 18	中間のまとめ	1～16回までの講義で学んだ内容について確認を行う。	泉川 昌宣
19) 20	コンポジットレジン修復 (2) 1. 光重合型コンポジットレジン修復の臨床的特徴 2. 光重合型コンポジットレジン修復の適応症 3. コンポジットレジン修復窩洞の一般的特徴 4. 臨床的操作法	コンポジットレジン修復の臨床的特徴、適応症、窩洞の特徴、臨床術式を理解する。 「保存修復学」P.141-P.170 D-5-2-1-3 E-5-3-1-1 E-5-3-1-2	松田 康裕
21) 22	ガラスイオノマーセメント修復	ガラスイオノマーセメントの特徴、理工学的性質、窩洞そして修復法を理解する。 「保存修復学」P.170-P.177 D-5-2-1-3 E-5-3-1-3	松田 康裕

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

保存修復学（前期）の評価方法

- ・ [保存修復学（前期講義）（前期実習）評価方法] 中間試験(筆記試験)45%、定期試験(筆記試験)45%、小テスト(筆記試験)10%

前期実習は定期試験で実習内容について問う問題を出題し評価する。

前期実習の作成物、検印、レポートの評価は後期実習試験で行う。

- ・ [判定法] 中間試験(筆記試験)45%、定期試験(筆記試験)45%、小テスト(筆記試験)10%で60点以上を合格とする。

保存修復学（後期）の評価方法

出席回数が講義70%および実習70%に満たない場合、定期試験および追再試験の受験資格を得ることはできない。

- ・ [保存修復学（後期講義）評価方法] 定期試験(筆記試験)90%、小テスト(筆記試験)10%
- ・ [保存修復学（後期実習）評価方法] 実習試験(筆記試験)50%、製作物・検印及び小テスト・レポート（50%）
- ・ [判定法] 後期講義（50%）、後期実習（50%）、60点以上を合格とする。

保存修復学（前後期）評価方法

- ・ [判定法] 前期評価（50%）、後期評価（50%）とし、60点以上を合格とする。

【教科書】

「保存修復学」千田彰 宮崎真至 林美加子 向井義晴 斎藤隆史 編集 医歯薬出版

「保存修復学21」田上順次 奈良陽一郎 山本一世 斎藤隆史 監修 永末書店

「保存修復クリニカルガイド」千田彰 寺下正道 田上順次 奈良陽一郎 宮崎真至 片山直 編集 医歯薬出版

【学修の準備】

指定した教科書の該当ページを事前に読んでおく。(30分)

講義の最初に、前回の講義内容に係る小テストを実施するので、復習をしておく。(30分)

- ・ 講義の最後に小テストを行う。

【ディプロマ・ポリシーと該当授業科目との関連】

DP1. 安全で質の高い歯科医療を提供するために必要な専門知識に基づく問題解決能力と患者ケアのための診療技能とからなる専門的実践能力、および医療・医学研究の発展のために必要な情報・科学技術の活用能力を身につけている。

(専門知識に基づいた問題解決能力、患者ケアのための診療技能、情報・科学技術を生かす能力)

DP3. より安全で質の高い歯科医療を実践し社会に適応する医学を創造していくために生涯にわたって自己および他の医療者との研鑽を継続しながら医療者教育と学術・研究活動にも関与できる能力を身につけている。

(科学的探究、生涯に渡ってともに学ぶ姿勢)

DP4. 多職種（保健、医療、福祉、介護）と連携・協力しながら歯科医師の専門性を発揮し、患者中心の安全な医療を実践できる能力を身につけている。

(多職種連携能力)

DP5. 歯科医療の専門家として、経済的な観点・地域特性を捉えた視点・国際的な視野を持ちながら活躍できる能力を身につけている。

(社会における医療の役割の理解)

【実務経験】

斎藤 隆史（歯科医師）、松田 康裕（歯科医師）、泉川 昌宣（歯科医師）

【実務経験を活かした教育内容】

学理に則った教育内容と実務経験を活かすことで、教育成果が期待できる内容となっている。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している